

第60回「とやま県民家庭の日」作品コンクール

作品集

【富山県知事賞】受賞作文

家ぞくのためにわたしができること	砺波市立砺波北部小学校2年	水 戸 彩 音…1
いのちのおもさ	富山市立神保小学校3年	南 韶…2
反抗期は続くよ、どこまでも	射水市立片口小学校6年	焼 田 崇 央…3

【富山県教育委員会教育長賞】受賞作文

わたしのたいせつなかぞく	高岡市立戸出東部小学校1年	來 栖 波…4
あさたべるおいしいおにぎり	南砺市立福野小学校1年	松 井 環 実…5
わがやのゴロゴロタイム	富山市立中央小学校3年	米 田 葉 里…6
家族が教えてくれたこと	射水市立新湊放生津小学校4年	宇野津 結 人…7
私とばあばの10年間	富山市立神保小学校5年	南 奏…8
私の家の大切な言葉	高岡市立高岡西部小学校6年	鍛 治 咲彩子…9

【青少年育成富山県民会議会長賞】受賞作文

あかちゃんがうまれた	高岡市立木津小学校1年	上 妻 杏花里…10
もう一人のきょうだい	魚津市立道下小学校2年	廣 濱 芹 奈…11
みんなでししまい	立山町立立山小学校2年	間 野 稀 文…12
一人じめのたから物	高岡市立高岡西部小学校3年	二 塚 王 誇…13
じいちゃん兄ちゃん	入善町立桃李小学校4年	上 田 葵 偉…14
ようこそわが家へかわいいい弟	砺波市立砺波北部小学校4年	水 戸 棕太郎…15
幸せを運ぶツバメ	富山市立鵜坂小学校5年	丸 山 藍…16
おじいちゃんの気持ち	高岡市立福岡小学校5年	関 大 生…17
ぼくの宝物	氷見市立西の杜学園5年	山 崎 悠 希…18

富山県知事賞

家ぞくのためにわたしができること

砺波市立砺波北部小学校 2年 水戸 彩音

「今、赤ちゃんが生まれたよ。赤ちゃんもお母さんも元気だよ。」

1学きのしゅうぎょうしき日のあさ、父から聞きました。

「やったー赤ちゃんに早く会いたいな。」

わたしは、うれしい気もちで学校へ行き、おともだちに弟が生まれたことをつたえました。

弟が生まれた日、母と弟に会いにびょういんへ行きました。

「お母さん、赤ちゃんを生んでくれてありがとう。」

と母につたえると、母は、

「ありがとう。」

とこりわらってくれました。しかし母はまだ体がいたそうで、あるくのも大へんそうに見えました。生まれたばかりの赤ちゃんは、足も手もかおも小さくてかわいかったです。母と弟がたいいんしてたら、2人のことをいっぱいいたすけたいと思いました。

弟が生まれてからしばらくのあいだ、父もいく体をとることになりました。父が母のかわりに、りょうり、せんたく、そうじ、かいものなどをします。そのあいだに、母には、ゆっくり体を休めてもらいます。弟のおせわは、家ぞくみんなでぶんたんします。わたしは、おむつこうかん、きがえ、ねかしつけ、ミルクをのませたりしています。弟のおせわをする時には、やさしく声をかけます。弟と目があうと、

「あーうー。あーうー。」

と声を出したり、手足をバタバタさせたりします。くびがすわっていないので、だっこする時はくびのうしろをしっかりささえます。弟のおせわをすると、弟のかわいいようすを見られるし、父や母にいっぱい「ありがとう」と言ってもらえるので、とてもうれしいです。

父と2人でスーパーに行ったときは、おかいものおてつだいをします。カートをおしたり、かつたものをふくろにつめたりします。この前は、父がどのなつとうをかおうかまよっていたので、母がいつもかっているなつとうをおしえてあげました。

「あやねがいてくれて、たすかったよ。」

と父に言われて、父をたすけられたことがうれしかったです。

弟が生まれて、うれしくて、たのしいまい日だけれど、父と母はとてもいそがしそうで、一しょにあそべる時かんがへって、すこしさみしい気もちもあります。弟が生まれてくれたおかげで、家ぞくみんなですごす時かんがとてもたのしくて大せつな時かんだということがわかりました。

「わたしのかわいい弟へ 生まれてきててくれてありがとう。これからもいっぱいおせわさせてね。いっぱいあそぼうね。」

富山県知事賞

いのちのおもさ

富山市立神保小学校 3年 南 韶

れい和7年3月29日、わたしは悲しい気持ちでいっぱいになった。

大好きなばあばが天国に行ってしまったとママが泣きながら話してくれた。わたしは、あんなに泣きじゃくるママのすがたを見るのは初めてだった。

ばあばは、8年間びょう気とたかいつづけていた。すごくすごくがんばった。いたい事もくるしい事もつらいことだって、「大じょうぶ。」と言ってのりこえていたとっても強いばあば。

でも本当はまぎやくだった事をわたしは後から知った。ばあばは、お見まいに来るわたしたちまごや、大好きなママの顔を見て、『生きよう』と思い、つらさにたえていただけだった。それをママから聞いたわたしは、少しでもばあばの力になれる事をひつ死で考えた。

そこで、わたしのとくいで大好きな絵と手紙を組み合わせたプレゼントを作ることにした。きれいな色のペンや、おり紙、びんせんを使って目で楽しめるとくべつなお手紙を作った。

ばあばにそのプレゼントをわたした日、ばあばは目をなみだできらきらさせて目がくしゃつとしたやさしいえ顔を見せてくれた。わたしはばあばのよろこぶ顔が本当にうれしかった。ばあばのためにと思ってした事だったけれど、それを見たママもわたしにありがとうと言ってくれた。その時、わたしのしたことで、みんなが一しゅんでもあったかい気持ちになれたのだと分かった。わたし1人の小さな行動が、人の気持ちを大きく左右させた事は自分にとってもかけがえのないしゅん間だった。わたしはたくさんの気持ちを学んだことの日々をぜったいにわすれない。

ばあばがいのちをかけて教えてくれたことをむねにぎゅっとだきしめながら大人になっていきたい。

ママがばあばをなくしてすごく悲しかったように、わたしもママがいなくなることをそうぞうするだけでとってもつらい。

だから元気でいる毎日に感しやをして大好きな家ぞくのみんなにたくさんのがいがとうをつたえていこうと思う。

思うだけではなくて、相手にしっかりと気持ちをつたえること。行動することの大切さをばあばはわたしに教えてくれた。

「ばあばずっとずっと大好きだよ。たくさんがんばったからゆっくり休んでね。ママのことはわたしにまかせてね。本当にありがとう」

と、毎日心の中でばあばに話しかけている。

富山県知事賞

反抗期は続くよ、どこまでも

射水市立片口小学校 6年 燃田 崇央

いつも親の一言で「カチン」と頭に来る。そして無性に腹が立ち反論する。そこからぼくと母との壮絶なバトルが始まる。毎日あきもせぬ繰り広げられるバトルが。

ある日の事だ。ぼくの反抗タイムは解しやくの違いで大笑いに変わった事があった。母にうるさく何度も、

「勉強しなさい。」
と言われた。あまりにもうるさくしつこいので、

「うるさいな。ほつといて。うつとうしい。」
とキツイ口調で言ってやった。さすがにブチギレた母が、

「今から9時までゲーム機を没収。タチナサイ。」

と言い放った。うるさいと思ったぼくは、

「何で立たないけんの。うるさいなー。ほんまに。むかつくな。」

と悪態をつきながら、仕方なく漢字の宿題を持ってソファーから立ち上がった。すると今の今まで鬼の形相をしていた母の表情が緩み始めた。いや今にも吹き出しそうなのがまんしている様にも見えるといった方が正しい。するとどこからか、

「アハハ。」

と姉の大笑いと、

「クックックッ。」

と必死に声を押し殺して腹を抱えて笑う父。

「エッ、何なん。何がおかしいん? オカンは立ちなさいって意味わからん事を言うし。腹立つわ。」
ってぼくが真剣な顔をして言うと父が、

「お母さんが言った『タチナサイ』ってスタンダップの『立つ』じゃなくて断絶の『断つ』だよ。本当に立つ崇央君かわいすぎ。」

これを聞いてさっきまで顔を真っ赤にして繰り広げられていた、ぼく VS 母のバトルだったのが一瞬にして腹を抱えての大笑い対決に変わった。相変わらずお互いの顔は真っ赤なままだけど。ほんのちょっとの言葉の解しやくの違いでここまで大笑いし空気が変わりいつもの仲良しに戻ったのだ。もちろん、父に、『かわいすぎ』なんて言われたから照れ臭くなつて、

「うるさ、キモイ。」

って思わず思つてもない事を言つてしまつた。

ぼくは今、反抗期なのだろうと思う。親の言う事が多分正しいだろうけど、素直に聞きたくないという気持ちの方が勝つていて。その度に衝突する。その度にイライラしたり、「言い過ぎたな」とか「うちの親、子供相手にここまで言わなくても」と思う事もある。だけどこの関係、ぼくは嫌いじゃない。むしろ相手がこの親だからできる事なんじゃないかと思う。こんな反抗的な事ばかりしているぼくだけど不思議な事に誰にでも反抗は決してしない。祖父母にすら自分の気持ちを押し殺して良い子を演じているのだ。

挙啓 両親へ

もうしばらくはぼくの反抗期は続くと思う。いや続く。正直どこまで続くんだろう?どこまでも続くのかな?終わりは来るのかな?と自分でも思う。こんなぼくに付き合い当たり散らされる親はきっと辛いんだろうなと頭ではわかっている。でも今は我慢できない。だけど本当の事を言うと安心して反抗できるのは紛れもなくぼくの親だけなんです。だからぼくの反抗期にもう少しだけお付き合い下さい。そしてお酒と一緒に飲める様な大人になった時に、

「あの頃は本当に大変だった。自分の息子じやなかつたらぶん殴つてた。」
ついつものしようもないいたずらを考えている時のような顔で笑いながら反抗期の仕返しの様な嫌味を言って下さい。その時はしっかりと反論せずに聞きます。そしていつか来るその日を楽しみしております。

敬具

富山県教育委員会教育長賞

わたしのたいせつなかぞく

高岡市立戸出東部小学校 1年 来 栖 波

3かげつまえ、わたしにおとうとがうまれたよ。なまえは「さく」。わたしはじめてのおねえちゃんになったよ。はじめてさくのかおをみたとき、とってもちいさくて、かわいくてドキドキしたよ。

さくがないているとき、わたしがえほんをよんであげたら、なきやんでこっちをみてくれたよ。うれしかったな。

このまえ、ママといっしょにおむつのこうかんをしたよ。さいしょはうまくできなかつたけれど、ママが「じょうずにできたね」といってくれて、うれしかつたな。いまではひとりでもできるようになつたよ。

おふろにもいっしょにはいったよ。さくのあたまをあらってあげたら、ニコニコしていてかわいかつたよ。いまはちいさいけれど、これからもっとおおきくなつたら、いっしょにあそべるのたのしみだな。

わたしはさくといっしょに、どうぶつえんやプール、ゆうえんちにもいきたいな。たくさんあそんで、たくさんわらいたいな。

ママとパパと、おねえちゃんがふたりと、わたしとさく。みんなでなかよくくらしたいな。わたしのいちばんたいせつなかぞくだよ。

富山県教育委員会教育長賞

あさたべるおいしいおにぎり

南砺市立福野小学校 1年 松井環実

「おきて」とママのこえ。ねむいめをこすり、ふとんのうえでおおきくのびをするわたし。ゆっくりとおきて、ごはんのいすにすわります。つくえのうえには、わたしのひらくらいのおにぎりが3つあります。わたしは、のりのおにぎりをかたてでもってひとくちたべます。「あっ、おいしい」と、こころのなかでおもい、すこしげんきがでます。わたしのおにぎりは、ママがあさはやくおきてつくってくれます。

わたしがおきたときには、おねえちゃんはおにぎりをたべおわっています。いもうとはゆっくりおきて、りょうてでおにぎりをもってたべはじめます。いもうとは、とてもくいしんぼうで、いつも「ママ、おかわりください」と、おおきなこえでいいます。さいごにおきてくるのは、パパです。パパは、かみのけがいつもボサボサになっています。わたしは、パパに「かみのけがボサボサだよ」というと、みんながわらいます。わたしも、おもしろくなりおおわらいします。

わたしたちは、まいあさてんきよほうやうらないのはなしをしながらおにぎりをたべます。「あっ」と、きがつくとがっこうにいくじかんです。わたしは、「いそがないと」とおもい、すこしドキドキします。いそいでのこりひとくちのおにぎりをくちにいれて、せいふくにきがえます。ママは、おけしょうをし、パパもしごとのじゅんびをはじめます。かぞくみんな「いそいで」と、こえをかけながらバタバタとあさのじゅんびをします。

おなかがいっぱいになったわたしは、いちにちがんばれるきがします。ママのつくるおにぎりは、かぞくみんなをげんきにするおいしいおにぎりです。わたしも、あさはやくおきてみんなにおにぎりをつくってあげたいです。

富山県教育委員会教育長賞

わがやのゴロゴロタイム

富山市立中央小学校 3年 米田葉里

「さあ、みんなねるよ。」

そうお母さんが言うと、私たち兄弟は一目散に布団にとびこみます。

私の家では、部屋に布団をならべて家族全員でねています。夜中に家族の足が入ってきたり、反対に私がゴロゴロ転がったりするので、1人部屋やベッドでねている友達がうらやましいです。

でも、ねる前に家族と一緒に本を読んだり、学校での出来事を話したりする時間が大好きです。この前は、みんなで横になりながら、お父さんが幼い頃の思い出を話しました。私はおもしろくて涙が出るほどわらいが止まりませんでした。目がパチリさせて、眠れないと思っていたけど、いつの間にかすっとねっていました。

その他にも、お兄ちゃんやお姉ちゃんとけんかをしたとき、なぜか布団の中にいくと自然と仲直りをしています。だれにも聞かれないように小さな声でひみつの話をしたり、明日の予定をこっそりやくそくしたりして、布団という場所が私たちを仲よくしてくれます。きっと布団の上に転がりながら大笑いしたり、おしゃべりしたりすると、体が温かくなって安心するんだと思います。

ときどき、お兄ちゃんは合宿、お父さんやお母さんは出張で、家族のだれかがいない日があります。そんな日は布団が広く感じるし、家族のねる場所でねてみることができて楽しい気持ちになります。でもどこか心細くて、落ち着かないです。布団が広くなった分、家族のぬくもりが足りなくなると思います。

私は、布団には不思議な力があると思っています。1つは、1日のつかれをきゅうしゅうして私たちをぐっすり眠らせてくれるまほうの力。そしてもう1つは、けんかをしてもいつの間にか仲直りさせてくれる、心をくっつける力です。だから、1日の最後に家族が同じ場所でわらって、ねることで、きずなが強くなると思います。私は、家族で旅行やごはんを食べる時間が好きです。でも、みんなとゴロゴロする時間は、家族の心がふれあう大切な時間です。

これからも私の心をみたしてくれるゴロゴロタイムを大事にしたいです。

富山県教育委員会教育長賞

家族が教えてくれたこと

射水市立新湊放生津小学校 4年 宇野津結人

とやま県民家庭の日、ぼくは、ぼくの大好きな両親に、目一杯の「ありがとう」を伝える日にしたいと思います。

「お父さん、お母さん、いつも全力で向き合ってくれてありがとうございます。ぼくの自まんの家族です。」

「面あり、勝負あり。」初めての剣道の公式戦で、3人の審判が赤色の旗を上げ、ぼくは自分の背中につけていた白色のタスキを外さなければなりませんでした。ぼくの、負けです。小学生の剣道の試合は、2分3本勝負で行われます。ぼくは、対戦相手の真っすぐな目と、堂々とした様子に圧とうされ、けい古の成果を出すことができませんでした。

ぼくが通っている道場は、ぼくのお母さんが小学生の頃に、けい古をつんだ場所です。

ぼくは、試合が終わった後、お母さんにこんなことを言いました。

「剣道、ぼくには向いていない。もともと、剣道を始めたのだってお母さんにすすめられたからで、ぼくが決めたわけじゃないし、身長だって大きくないし。」

ぼくは、「お母さんを悲しませてしまったかな。」と不安になりました。しかし、お母さんの反応は、ぼくをびっくりさせるものでした。

「お母さんね、もう一度剣道をやってみようと思うんだ。20年ぶりに、チャレンジしたくなってね。」

お母さんの決心を聞いた時、ぼくは正直、いろいろな気持ちになりました。お母さんの剣道を見てみたいな、という気持ちと、大丈夫かなという心配な気持ちです。なぜかというと、ぼくは、お母さんがあまり体が丈夫じゃないことを知っていたからです。

けれども、道場でのお母さんは、ぼくが初めて知る、力強くて堂々とした様子でした。

道場に入る時は、「おねがいします。」と大きな声で言い、一礼をする。けい古の時も、お母さんは精一杯のかけ声で、剣道の先生達に技を打ちこんでいきました。スピードはゆっくりで、正直、ぎこちないけれど、ぼくは、お母さんの剣道を夢中で見ていました。

ぼくのとなりには、お父さんがすわっていました。お父さんは剣道の経験がないけれど、いつもけい古を見守ってくれたり、本や動画で剣道のことを勉強してくれたり、一生けん命にぼくを応えんしてくれています。

ぼくは、「今度こそ試合に勝ちたい。心と技をきたえて、一本を取るすがたを、お父さんとお母さんに見てもらいたい。」と強く思いました。温かい家族からの応えんが、ぼくに勇気をくれました。

ぼくには、もう1つの新しい目標があります。それは、ぼくの両親のように、大切な人のために、一生けん命に行動できる人になるということです。思いやりの心をもって人と向き合えば、きっとみんなの心を笑顔にできると思うからです。暑い暑い夏、今日もぼくは、家族と道場へ向かいます。

富山県教育委員会教育長賞

私とばあばの10年間

富山市立神保小学校 5年 南 奏

平成27年3月1日、私がこの世界にたん生した。

そして、令和7年3月29日、大好きなばあばが57さいという若さで天国へ行ってしまった。たった10年間しかいっしょにいられなかつたばあば。そんな大切な日々をおはか参りをして思い返した。

ばあばは47さいでおばあちゃんになった。何があつても絶対に泣かない強い人だった。ママの結こん式でもぐつとこらえて泣かずにいたそう。

そんなばあばがおどろくほど泣いたのが、私がたん生したしゅん間だったとママが教えてくれた。私はその話を聞いた時、心の底から幸せな気持ちがあふれてきた。

ばあばが病気だと分かったのは私が2さいの頃。それから8年間手術や治りようをずっとがんばつて続けていた。何度も入院したことをママから聞く度にとてもなくつらい気持ちが押しよせてきた。となりで妹はわんわんと泣きじやくっている。そんな妹をぎゅっとだきしめ、大丈夫だよと声をかけ、何度もはげました。だって私は、お姉ちゃんだから。

と同時に、ママも「私は長女だから。」と私と同じ気持ちでつらさにたえながらばあばの病院へ毎日行っていた。

そこで私は思った。大好きなばあばともつとずつといっしょにいたいし、がんばりすぎるママのことも助けてあげたい。だから私はママにたのんでできるだけばあばのお見まいに連れて行ってほしいとお願いした。するとママは「いいよ。そう言ってくれてありがとう。でも今のばあばは全身すごく痛いし、なかなかお話できる状たいじやないけどそれでもいい？」と言ったので、私は「それでもばあばに会いたいから行く！」と返事をした。

次の日、私はばあばを見て、言葉を失った。いつもの笑顔が痛みにたえている苦しい表情に変わり、奏とやさしくよぶ声もか細くなっていた。今まで見てきたばあばではないそのすがたに何とも言えない気持ちになった。

後でママに聞いた話では、この時すでにばあばの命に期限がつけられていたのだそう。

だから、ママはできるだけふだん通りにしていたのだと気が付いた。

そこで私にもできることはないかと考えた。そういうばあばは私のことを赤ちゃんの頃から沢山だっこしてくれたなと思い出した。次は私の番。ばあばが少しでも体が楽になるように足のマッサージをすることにした。いつもママが1人でしていたのでママを手伝いたいという気持ちも強かつた。ママみたいに上手にはできないけれど、ばあばは今にも消えてしまいそうな声で「ありがとう。」と言ってくれた。そのしゅん間、涙が出そうになったのをぐつとこらえた。これを何日もくり返した。最後の入院1週間後、ばあばは一生けん命がんばった末、亡くなった。

私はまだまだばあばとしたいことがあったし、してあげたいことだって沢山あった。命があるということがどれだけとうといことなのか。亡くなったとしても、そのそんざいはずつと心の中にあるということをばあばは自分の命で教えてくれたのだと思う。

だから私は、ばあばとまだまだすごせたはずの何十年を大切な人達と感謝の気持ちを持って日々歩んでいきたい。

ママがばあばを大切にしていたように私も家族や周りの人達を大切にしたい。

そのためには私自身が自分のことを好きでいてあげなくてはと思う。

だから、元氣でいる時もそうでない時も自分と相手に正直でいることと、何があつても最後までやり切ることを大切に生きていきたい。

ばあば、これからも見守っていてね。いってらっしゃい、またね。

富山県教育委員会教育長賞

私の家の大切な言葉

高岡市立高岡西部小学校 6年 鍛治咲彩子

「いつもありがとう。」

それが私の家の大切な言葉だ。

私の家族は、おいしい料理を作ってくれる優しいお母さん、いつも明るいお父さん、元気でおもしろい弟、あまえんぼうで気の強い弟だ。おじいちゃんは畠仕事や地域の青パトに参加していて、おばあちゃんは家に行くといつも喜んで出むかえてくれる。おじいちゃん、おばあちゃんは元気でいつも笑顔だ。私はそんな家族が大好きだ。何か困っていることがあったらお母さんに相談もできる。弟はいつもおもしろいことを言ってみんなを笑わせてくれる。私は弟の言う言葉がとてもおもしろくて毎回楽しみにしている。また、一番下の弟は、あまえんぼうだけど友達の前では気が強く、自分の意見を素直に言うことができて、すごいと思い、いつも尊けいする。家にいても学ぶことはとてもたくさんある。しかし、私はこの前ニュースで大切な家族を殺害されてかなしんでいる人を見た。それを見ると、とても心がいたくなかった。大切な家族を失ったらどんなに悲しいだろう、どんなにつらいだろう、何度も何度も思つた。人の命はいつ消えてしまうかわからない。だから、家族がいて当たり前とは思わずには家族がいることを感謝しないといけないと思う。私は家族がいると、とても心強い。おじいちゃんやおばあちゃん、お父さん、お母さん、弟達も

「家族がいていいね。」

「心強いね、ほっとするね。」

と毎日言っている。私も実際そう思う。家族がみんな仲良く健康でいられることはとてもうれしくて、幸せなことだ。人はいつ死ぬかわからないから、「生きていてくれてありがとう。」のような声がけが大切だと思う。生きている時間は短いから、当たり前だとは思はずに「ありがとう。」ということは大切だと思う。また、お父さん、お母さんにも「人にお礼を言うことは大切だよ。生きている時間はとても貴重だよ。」と何度も教えられてきた。だから、私の家では「ありがとう。」という言葉を大切にして暮らしている。何かしてもらったらすぐ「ありがとう。」物を拾ってくれたら「ありがとう。」どんなに小さい小さいなことも「ありがとう。」と言うことを心がけている。

また、大人だからえらいというわけではなく、みんな平等にすることも大事だと思う。例えば、私は家族の中で一番ピアノを上手にひくことができる。だから、私はピアノを教える先生になれる。弟は、トランプが得意だからトランプの先生。一番下の弟は人を笑顔にさせる先生。お母さんは料理の先生。お父さんはみんなを守る先生。このように一人一人が得意なものや好きなものを他の人に教えてあげられる。家族の上下関係をつくらないことで、自分は必要な存在などと自信がついておたがいに支えあい、家族の仲がより深まると思う。また犯罪のない家とはこういう家だと思う。なぜなら、犯罪をおかす人の多くは、家に居場所がなかったり、家族がおたがいに支えあったりしていないと思うからだ。家に居場所がないから家に帰らなかったり、おたがいに相談もできずに苦しい思いをするから、そのつらさが犯罪を起こしてしまうと思う。

そして、教えてくれたことに対しても、もちろん「ありがとう。」が生まれると思う。そのことで家族の輪が広がり、良い家庭になると思う。これからも「ありがとう。」という言葉と気持ちを大切にして生きていきたい。

「いつもありがとう。」

青少年育成富山県民会議会長賞

あかちゃんがうまれた

高岡市立木津小学校 1年 上妻 杏花里

「ままのおなかにあかちゃんがいるよ。」ときいたとき、わたしとおとうとは、おおよろこびしました。わたしたちは、4にんかぞくでしたが、「5にんかぞくにふえる！」とおもいました。えこうしやしんをみて「こんなたまごみたいなものがあかちゃんなの？」とびっくりしました。さかごだったので、ままといっしょに、ねるまえにさかごたいそうをしました。「おんなのこかな、おとこのこかな」とたのしみにしていました。

あさおきると、なぜかおうちにおばあちゃんがいました。「ままがにゅういんするからきたよ。」といいました。わたしは、「すごいもうあかちゃんがうまれるんだ。」とおとうとといっしょにわくわくしました。わたしはほいくえんにいきました。ぱぱがおむかえにきてくれて、「あかちゃんがうまれたよ。」といいました。

まとあかちゃんがたいいんするとき、ぱぱとおとうとおむかえにいきました。あかちゃんをはじめてみたとき、「はがない！」とおもいました。あかちゃんは、めがひらいていませんでした。いえにかえって、あかちゃんのよこでねっころがって、しゃしんをとりました。なまえは「こなつ」になりました。「こなつ、やさしくてげんきでかわいいこになってね。おおきくなったら、いっしょにぴあのれんだんしようね。」

青少年育成富山県民会議会長賞

もう一人のきょうだい

魚津市立道下小学校 2年 廣瀬 芹奈

わたしは、3人きょうだいです。みんなには、2人姉妹だと思われているけれど、ままのおなかの中には、もう一人赤ちゃんがいました。

その赤ちゃんは、ままのおなかの中でしんぞうが止まってしまいました。わたしが1さいのときのことなので、なにもおぼえていません。

ままは、びょういんでしんでしまった赤ちゃんをうんだそうです。そのちょうど1年ごの同じ日に、妹がうまれました。

わたしは、妹がうまれるまでは、つぎこそうまれてくれるかなと心ぱいしていました。

妹は、ぶじにうまれてきてくれたので、うれしかったです。わたしは、2人がうまれるまえに、こちらの中で妹たちと会話をしていました。ままがさびしい思いをしているので、早くうまれてきてね。

妹は、わたしが早くうまれてきてねといったのにおそくうまれてきました。その日がしんでしまった赤ちゃんのめい日だったので、妹がわざとおそくうまれてきたのかと思います。

妹は5さいになりました。毎年妹のたんじょう日が近づくと、ままが、あなたたちは3人きょうだいなんだよと話をしてくれます。そのときは、あいたいなと思います。妹は一どもあったことがないので「なんでわたしだけあったことがないの」といいます。

でも、わたしは、ほんとうは、妹たち2人のほうがつながりがつよいと思います。妹の中にしんでしまった赤ちゃんがいるのかな。わたしのことは大すきかな。

女の子だったらいいな。3姉妹なら、みんなでおそろいのかみがたにして、たくさんおしゃれができるから。男の子なら、しづかに子がいいな。父といっしょにカエルのおせわをしてくれるだろうな。

いつも、かんがえているよ。ゆめの中でたくさんあそぼうね。

青少年育成富山県民会議会長賞

みんなでしまい

立山町立立山小学校 2年 間野 稔文

ぼくの家ぞくは、みんなでしまいをしています。お姉ちゃんは、しあわせをしています。お兄ちゃんは、金ぞうというやくをしていて、ぼくは、さんばそうという子どものおどりをしています。お父さんは、ふえをふいていて、お母さんもぼくがおどるようになってから、ふえをれんしゅうしてまつりにさんかしています。

ぼくがどうしてしまいかというと、お姉ちゃんからしまいかが「お米がたくさんなりますように」「みんながびよう気にならないように」という思いをこめて100年つづいてきたということを聞いたからです。その思いがぼくのこころのおくにとどいて、しまいかをはじめようと思いました。

夏のおわりになると、ぼくは、公みんなでちいきのみなとしまいかをれんしゅうします。ぼくの家ぞくもみんなでしまいかをれんしゅうします。

れんしゅうがおわってみんなでおしゃべりしながら家に帰るのも楽しいです。家に帰ると、お母さんが家でふえをお父さんにならいます。ぼくとお兄ちゃん、お姉ちゃんは、そのふえにあわせておどります。お母さんは、ぼくのおどりのためにれんしゅうしてできたけど、ほかのきょくは、まだ下手でへんな音が出るからみんながわらいます。ぼくは、みんながわらっていて楽しいし、しまいかが大好きです。家ぞくのみながちいきの人のために同じ気持ちで楽しくれんしゅうするから、ぼくは、うれしくなって、もっともっとつづけたいと思います。何回もおどってくたくたになることもあるけれど、家ぞくがいつしょだからがんばれます。

ぼくは、これからも家ぞくといっしょにしまいかをつづけたいと思います。

青少年育成富山県民会議会長賞

一人じめのたから物

高岡市立高岡西部小学校 3年 二塚 王 誉

「やっぱり兄弟がほしかった？」

ある日とつぜん、お母さんはぼくに聞きました。知り合いの人に一人っ子はかわいそうだとか2人目の赤ちゃんを生まないのか聞かれて心ぱいになったそうです。

「お母さんはね、もう年をとったから赤ちゃんは生めないんだよ。」
と少し悲しそうにしていました。

「全ぜん平気だよ、ぼく一人っ子でよかったと思っていたよ。」
とぼくは答えました。本当にそう思っていたからです。

ぼくは小さいころはさみしがりやで、いつもお母さんかお父さんにくっついていました。2人とも一人じめできてうれしかったです。それにお母さんはべん強を教えてくれたり、いっしょにゲームでもり上がりったりします。お母さんなのにお姉ちゃんがいるみたいです。そしてお父さんとはたたかいごっこをしたり、お母さんにいたずらしていっしょにおこられたりしています。お父さんなのにお兄ちゃんがいるみたいです。となりの家にはおばあちゃんとおじいちゃんが住んでいて、いつもやさしくしてくれます。一人っ子だけどちっともさみしくないし、好きな時に好きなことをできて大まんぞくしています。

「王誇がさみしくないならよかったです。」

と言ってお母さんは、やっとわらってくれました。ぼくはこれからもお母さんを一人じめしてあまえていいんだと分かってうれしくなりました。

「ねえお母さん、そのおかしちょうだい。」

と言ってみるといつもどおりぼくの前には2つのおかしがならびました。お母さんは自分の分もぼくにくれたりします。兄弟がいたら一人1つだったかもしれないし半分だったかもしれない。そう思うとぼくが気がつくずっと前の小さいころから一人じめしてたんだと思います。あいじょうも、おかしも、プレゼントも、お母さんやお父さんがくれたものは全部ぼく一人のたから物です。

ちょっと心ぱいしようでまじめなお母さん、お調子もので明るいお父さん、やさしいおじいちゃんとおばあちゃん。家ぞくからもらっているたから物を大切にしながら、これからもにぎやかに楽しくくらしていきたいです。

青少年育成富山県民会議会長賞

じいちゃん兄ちゃん

入善町立桃李小学校 4年 上田 葵 健

ぼくは、一人っ子です。友達の兄ちゃんを見て「いいな。」と思うことがあります。それは、いつしょに遊んでくれたり、勉強を教えてくれたりするからです。

だけど、ぼくには、お兄ちゃんみたいな人が家にいます。ぼくのじいちゃんです。じいちゃんのことを「じいちゃん兄ちゃん」とよんでいます。

どうして、じいちゃんを兄ちゃんみたいに思うかというと、ほかの兄ちゃんみたいにトランプで遊んでくれたりこまの回し方を教えてくれたり、漢字や計算を教えてくれるからです。たまにけんかもします。その時は、ばあちゃんの面白い発言で仲直りします。

じいちゃん兄ちゃんの自まんは、物知りでやさしいところです。

ぼくが小さい時、こま回しがなかなかできなくて、こまっていたら、「こまを横にして投げたらいいよ。」

と教えてくれました。その通りにやつたら、本当に上手にできるようになりました。

じいちゃん兄ちゃんは、ニュースやスポーツの事など何でも知っています。

ぼくがはずかしくて、なかなか地区のお祭りに行けなくてなやんでいた時は、じいちゃん兄ちゃんが「大丈夫や。今に行けるようになるちゃ。」

とお話ししてくれました。ぼくはそれを聞いて安心しました。じいちゃん兄ちゃんは、ぼくがなやんでいたら、いつも「大丈夫。」とやさしく言ってくれます。だからぼくはゆう気が出ます。今度ぼくは、お祭りで小てんぐとしておどります。じいちゃん兄ちゃんが前に

「あおいが小てんぐでおどるのを見たいな。」

と言っていたそうです。だからぼくは、はずかしいけど、上手に元気よくおどりたいと思います。

そしたらじいちゃん兄ちゃんは、きっと

「あおい、がんばったな。すごいな。」

と言ってくれると思います。

じいちゃん兄ちゃんは、どんどん年をとってこしがいたくなってきたと言っています。これからは、ぼくが大きくなって力がついてくるので、じいちゃん兄ちゃんを助けてあげたいと思います。いつまでも元気でいっしょに兄ちゃんみたいに遊んだり、いろいろ教えたりしてほしいです。じいちゃん兄ちゃんが大好きです。

青少年育成富山県民会議会長賞

ようこそわが家へかわいい弟

砺波市立砺波北部小学校 4年 水戸 榛太郎

7月24日に弟が生まれて、ぼくは4人兄弟になりました。弟が生まれた日に病院に会いに行きました。初めて見た弟は、とても小さくて、かわいくて、早くだっこをしてみたいなあと思いました。

生まれてから5日後に母と弟がたい院して、家に帰ってきました。ぼくは、すぐにだっこをしました。「まだ首がすわっていないから、しっかり首をささてだっこしてあげてね。」と母に言われました。初めて弟をだっこした時は、身体がやわらかくて温かいと思ったし、けっこう重たいなあと思いました。

弟はミルクをいっぱい飲みます。おなかがへったり、ねむくなったり、暑くなると大きな声で泣きさけびます。弟の泣き声を初めて聞いた時は、大きな声でびっくりしました。

「赤ちゃんって生まれたばかりなのにすごく大きな声が出るね。」

と母に言うと母は

「あなたが赤ちゃんの時は、もっともっと大きな声だったし、初めて育てる赤ちゃんだったから泣き止ませる方法も分からなくて大変だったのよ。」

と言われました。そして祖母にも

「あなたが赤ちゃんの時全然ねてくれなくて、大声で泣いていて、だっこをして家のまわりをずっとおさん歩していたなあ。」

と言われました。ぼくは、赤ちゃんの時のことは全然おぼえてないけれど、泣いてばかりでみんなにめいわくをかけていたんだなあという気持ちになりました。でもその後に、母と祖母は

「あなたが赤ちゃんの時は全然ねむらなかつたし、大きい声で泣いたけれど、赤ちゃんは泣くのをくり返して大きく成長するんだよ。」

「いっぱい泣いて育てるのが大変だったけれど、とてもかわいかつたし、大変だった分思い出もいっぱいあるよ。」

と言ってくれました。母と祖母からの言葉はとてもうれしくて、ぼくの心は温かくなりました。

生まれたばかりの弟は、おなかがすぐと大声で泣くし、ねむったと思ってもおふとんにおくとすぐに目がさめて泣き始めたり、おむつ交かんの時も足をバタバタさせて、なかなか交かんさせてくれないし、お世話をしていても大変なことばかりです。でもぼくは家族の一員としてこれからも弟のお世話をがんばって行こうと決めました。そして弟が大きくなった時に、赤ちゃんのころの思い出話をいっぱいしてあげたいと思っています。僕の弟 健士郎へ いっぱい泣いて大きくなってね。大きくなったら一緒にサッカーしようね。

青少年育成富山県民会議会長賞

幸せを運ぶツバメ

富山市立鶴坂小学校 5年 丸 山 藍

「今年はツバメが来るかな。」

わたしの家には、2002年4月から2021年4月まで約20年連続でツバメのつがいがやって来て子育てをしていました。車庫の天井に木の板を打ち付け、ツバメが巣を作りやすいように亡くなったおじいちゃんが工夫していたそうです。ヒナが生まれて元気な鳴き声が聞こえ、親鳥が休む間もなくエサを運んできます。それからヒナが大きくなると親子で飛ぶ練習をします。小さな巣から大きくなったヒナが顔を出して周りを見ている様子がとてもかわいいです。

ところが、突然2022年からツバメがわたしの家に来なくなってしまったのです。

わたしがツバメが来なくなった原因を考えていたとき、お父さんがネコの切れた首輪が落ちていたこと、お母さんが車庫の近くでヘビを見たことを教えてくれました。そのとき気づいたのは、ツバメが来ていないことを心配していたのはわたしだけではなく、家族全員同じことを考えていたことです。毎日ツバメの話をしていたわけではないのに、家族それぞれがツバメのことを自然と考えていました。「またツバメがもどって来ますように。」と祈りながら車庫のそうじや片付けをしました。しかしその年ツバメは来ませんでした。

その次の年、さらにその次の年もツバメが来ることはありませんでした。

2021年に来たツバメが作った古い巣も、こわれてしまいました。お父さんが落ちた巣のそうじをしながら、「もうツバメは帰ってこないかも知れないね。」と言うと、お母さんが「さみしくなるね。」とつぶやきました。わたしもとても悲しい気持ちになりました。

2020年にコロナウイルスが大流行し、ツバメたちもがう国やちがう場所ですごしているのかな、ときどき夕飯を食べながら話し合ったりもしました。ツバメが来ることをあきらめずにずっと楽しみに待ち続けました。その間に家族でツバメのことを調べて、ツバメが巣作りをしやすいように車庫をそうじしたり、ネコやヘビが入ってこられないようにシャッターを必ず閉じたりするなどの工夫をしました。

そしてついに2025年5月にツバメが帰ってきました。いつもより1ヶ月おくれましたが、3年ぶりにツバメのつがいが巣作りを始めたのを見て、家族みんなで大喜びしました。「ツバメはわたしたちに幸せを運んでくれる鳥だね。」とおばあちゃんも笑顔で言いました。たった2羽のツバメのつがいが巣作りをし、たまごを産み、あたためて育て、5羽の家族になる様子を毎日見守っています。「今日はヒナが3羽巣から顔を出して鳴いていたよ。」「ヒナが大きくなって親鳥がエサを運んでくるのも大変だね。」「今日はヒナが巣から出て飛ぶ練習をしていたね。」このように毎日ツバメの話をしています。

ある日ツバメ一家がフェンスにとまってこちらを見ていました。それが最後のあいさつだったのかもしれません。その日の夜、ツバメ一家はわたしの家から旅立ったようです。

ツバメ一家がわたしの家に来てくれたことで、家族の会話が増え、ツバメの話をするときは自然とみんなが笑顔になりました。ツバメのために家族一人一人が自分の出来ることをやり、心を一つにしてがんばった約1か月はわたしの宝物です。また来年もツバメが来てくれることを家族全員で楽しみに待っています。

「ツバメさん、またうちに来てね。」

青少年育成富山県民会議会長賞

おじいちゃんの気持ち

高岡市立福岡小学校 5年 関 大生

「3週間ほど安静にして下さい。」

そう接骨院の先生に言われて、ぼくは練習できない、試合に出られない、いたい、辛い、心配される、いろんな気持ちになって泣いてしまいました。ぼくは野球をしています。練習中に足をひねってしまって、はじめは何ともなかったけど、練習おわりごろに右足がいたくなっていました。練習にむかえにきてくれたおじいちゃんに、

「だい、足いたいがか。」

と聞かれたけど、

「なんともない。」

と答えました。おじいちゃんはすごく心配するから本当はいたいけど内しょにしました。

お母さんが仕事から帰ってきて話したら、接骨院に行くことになりました。でも近所の接骨院に行つたけど休診でした。明日から3連休に入るの、今日みてもらった方がいいから、おじいちゃんがよく行っている少し遠くの接骨院にいくことになりました。

「10段階にしたら5の捻挫で、安静にして治りようすれば、野球できるようになるぞ。」

と言われて、安心してシップをもらって帰りました。おじいちゃんは、

「やっぱり足いたかったがやろ、なんで言わんがや。」

と、少し怒っていました。心配するからとは言えませんでした。

それから毎日、おじいちゃんに送ってもらって、電気をかけ終わるころにむかえにきてもらって、接骨院に通いました。家では、かいだんの登り下りもよくないから、1階で過ごすことが多くなりました。ぼくが歴史を好きなことを知っていて、おじいちゃんは「これおもしろいぞ。」と、チャンネルをかけてくれて、「独眼竜政宗」を一緒に見ました。すごく昔のドラマだったけどぼくは戦国時代が好きだからおもしろかったです。高校野球も一緒に見ました。横浜対岐阜商のサヨナラや仙台育英対沖縄尚学の延長戦は盛り上りました。

ぼくは、捻挫がだいぶよくなってきたころ、おじいちゃんの腰つうが悪化して、接骨院のとなりのベッドはおじいちゃんになりました。電気をかけている時間、ぼくはマンガを読んでいますが、おじいちゃんはずっとしゃべっています。どこがどんな風にいたいとか、世間話とか、聞こえてくるので、そんなにいたいのかと、心配になりました。おじいちゃんも、ぼくに対してこんな気持ちだったのかと思いました。

いつも練習前の軽食を準備してくれたり、野球の試合中に大きな声で応援してくれたりしています。そんなぼくがけがをしたとなると、「そりや心配するか。」となつとくできました。試合の日まで捻挫を治すことができて、5番ファーストで試合に出ることができました。けがをしないようにじゅうなん体そうをしっかりと、けがの予防をしたいです。そして、おじいちゃんに甲子園でプレーをするぼくの応援をしてほしいです。

青少年育成富山県民会議会長賞

ぼくの宝物

氷見市立西の杜学園 5年 山崎 悠希

ぼくにはいっしょに住んでいるおばあちゃんがいます。おばあちゃんは学校から帰って来ると、「ゆうきちゃんおかえり。」と、持ち前の高く明るい声でむかえてくれます。ぼくは大きな声で「ただいま。」と答えます。リビングへ行くと部屋は明るくてエアコンが付けてあります。暑い夏はひんやり、寒い冬は部屋が暖かくなっています。ぼくはとてもうれしいです。

そんなおばあちゃんですが、少し前まで家の近くで、ミキ美容室をしていました。小さいころは三輪車でよく遊びに行っていました。カットやシャンプーをしてもらったりおやつを出してもらったりしたのを覚えています。帰りが遅い時には美容室まで迎えに行ったりもしました。

しかし、2024年1月1日の地じんで建物にひびが入ってしまいました。修理してこのまま美容室を続けるか、このままやめてしまうのかという状況になってしまいました。おばあちゃんは年れいが高くなって来ていたのもあり、悩んだ結果美容室を閉じることにしました。何十年も続けて来たのでとてもつらかったと思います。お客様に、「このまま続けて。」「ミキさんにしてもらいたい。」

という声も多く、うれしい気持ちと続けたい気持ちでいっぱいだったと思います。でもおばあちゃんは、「自分はやり切ったから、後かいはないよ。」とぼくに話していました。ぼくのお父さんも美容師でおばあちゃんはお店に手伝いに行くことがあります。その他にもお客様から頼まれて出張してカットに出向いたりもしています。そんなおばあちゃんのがんばっている姿を見るのが、ぼくは大好きです。

おばあちゃんは、料理もとても上手です。特にくりご飯や天ぷらなどはぼくの大のお気に入りです。くりご飯は米がいいぐあいにしょっぱくそれになりの甘みがすごく合います。ポイントはくりを多く使い食感をよくしているところです。天ぷらは衣がうすくあげる時間が短いので、あげ物が苦手なぼくでも食べやすいことです。そばと合わせるとさらにおいしくなります。おばあちゃんの作ってくれる料理がとても好きです。

でもおばあちゃんは最近年をかさねたせいか体調をくずしやすくなっていました。はいえんになり点てきをするために入院することもあります。ぼくはおばあちゃんが体調をくずすたびにすごく心配になります。このままずつといっしょにいたいという気持ちでいっぱいだからです。

おばあちゃんとは買い物に出かけたり、夏休みには太閤山ランドのプールに出かけたりしています。いっしょに楽しく遊んでまだまだ行けるぞというところも見せてくれています。

ぼくはしょう来このおん返しをしたいです。何か小さいことでも少しずつ返していきたいと思います。車のめんきょを取ったらぼくが運転して少し遠くまで出かけたいです。お花いっぱいのきれいな場所や星がいっぱい見える夜空を見せてあげたいです。おばあちゃんが好きな温泉もつれていってあげたいです。おいしいものを食べてゆっくりとお風呂につかってほしいです。

今日もぼくが帰って来るとおばあちゃんは「ゆうきちゃんおかえり。」と言います。ぼくは元気に「ただいま。」と答えます。すぐにげん関から明るい電気の付いた心地よいリビングへ向かいます。おばあちゃんいつまでも元気でいてね。ぼくも毎日勉強がんばるからね。

作文の部 審査評

審査委員 元富山市立呉羽小学校長 浜谷 尚生

この作文コンクールも今回 60 回となりました。応募くださった児童の皆さん、支えてくださった保護者の皆さんに厚く御礼申し上げます。

最終選で各部門で知事賞に選ばれた 3 編は、いずれも家族の誕生と逝去を扱ったものとなりました。この 2 つの出来事は家族が喜びや悲しみを共有する最も大きな出来事だらうと思います。ほかにも転勤、進学などによる別離、また入院による生活の激変などにも同じことが言えるでしょう。起きた事柄を通して筆者だけでなく家族みんながまた一段と成長します。作品を読みながらそのことを実感しました。一方、ふだんの生活に取り入れられた様々な心温まるイベントの計画や実施の記録に触ることも選者の喜びの一つです。

それでは、各部門で知事賞を受けた作品について述べます。

砺波市立砺波北部小学校 2 年 水戸彩音さんは、昨年佳作に選ばれています。応募作品に弟妹の誕生をテーマにした作品は多いのですが、水戸さんの作品はその中でも際立っていました。それは生まれた弟のかわいらしさの表現を極力抑え、題名が示す通り「わたしができること」を中心にしたことです。産休を取ったお父さんの働き、家族みんなで分担した弟の世話などを具体的に述べ、弟のかわいいようすはその中で描きました。「あーうー」や「手足をばたばた」などの描写が効果的です。弟についての記述が控えめだけに、文章を、弟にかける言葉で結んだのはヒットでした。「これからもいっぱいお世話させて」に水戸さんのお姉さんになった自覚が感じられます。また大人にも「おとうさん」などという人がいる中で「父が、母の」といった表現に 2 年生とは思えない水戸さんの成長を感じました。

富山市立神保小学校 3 年 南 韶さんは、昨年教育長賞に選ばれています。題名の「いのちのおもさ」って何だろうと考えながら読み進めるうちに、筆者の考えが明らかになってきます。全文に「うれしかった、わすれない、いきたい、つらい」など思いを表す言葉があふれていますが、取り上げられた事実は思いの裏付けになっているだけでなく、その事実を取り上げたことそのことからも気持ちが伝わります。「わたし一人の小さな行動が、人の気持ちを左右させたことは自分にとってかけがえのない瞬間になった」という気付きは、南さんの生涯にわたって生きるでしょう。また、「思うだけでなく、相手に伝えること行動することの大切さ」など、読み手にも考えさせることの多い作品でした。

射水市立片口小学校 6 年 焼田崇央さんの作品について述べます。反抗期の自分と両親の関係が、書き出しの 2 文で簡潔でありながら余すところなく言い尽くされ見事です。ここで読み手は一種の緊張感を抱くのですが、その緊張はすぐ解かれます。それは言葉の意味の取り違えから家族みんなで大笑いになったエピソードの紹介を長めに挿入したからです。それだけでなく、作品全体がもう一人の自分が自分を語っているように思えるのです。つまりもう一人の自分は常に自分の言葉や行動を冷静に、客観的に見つめていることです。「親の言う事が多分正しいだろうけど、素直に聞き入れたくない」という気持ちという気持ちが勝つて」「相手が親だからできるが祖父母には」などにそれが現れています。この筆者の反抗に余計な気遣いはいらないと思わせるのです。そしてこの作品の圧巻は終末の両親への手紙の部分であることは誰にも異存はないでしょう。そこで初めて使われた敬体表現が生きています。

昨年の大震災のショックも癒えないまま、今年も内憂外患そのままに過ぎていく気配です。各地を襲った豪雨、竜巻や津波、記録更新を続けた猛暑などの自然災害に加えて、米を筆頭にした値上げ続きや様々な人災、最近は連日クマの被害も。外を見れば国と国、地域と地域の戦争や内乱と心穏やかに過ごせない日々です。そのような状況を自分のこととしてどう受け止めるか家族で話し合い、万一に備える心構えの共有が大切ではないかと思います。